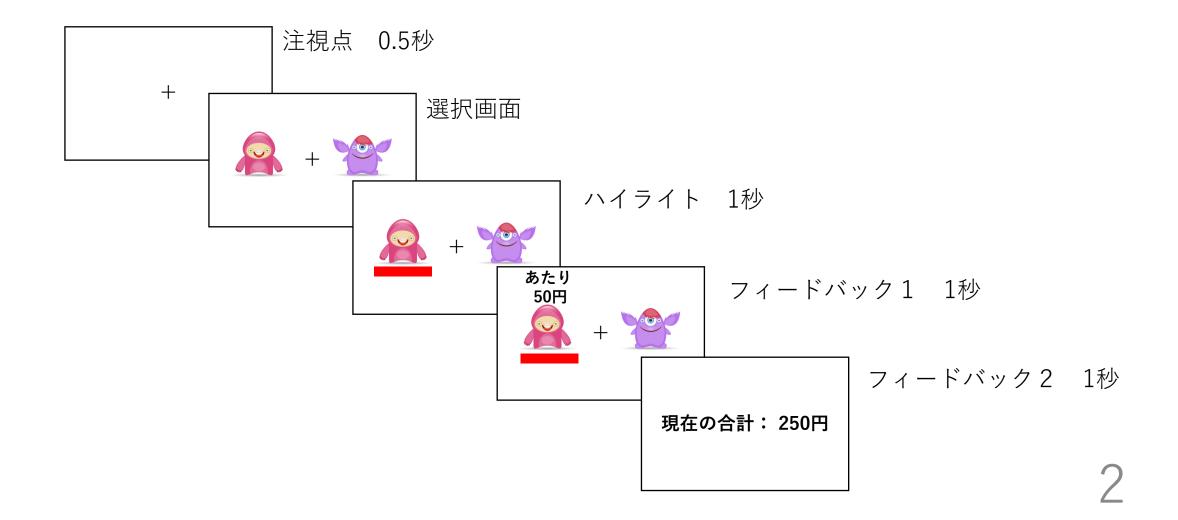
# PsychoPyで課題作成②

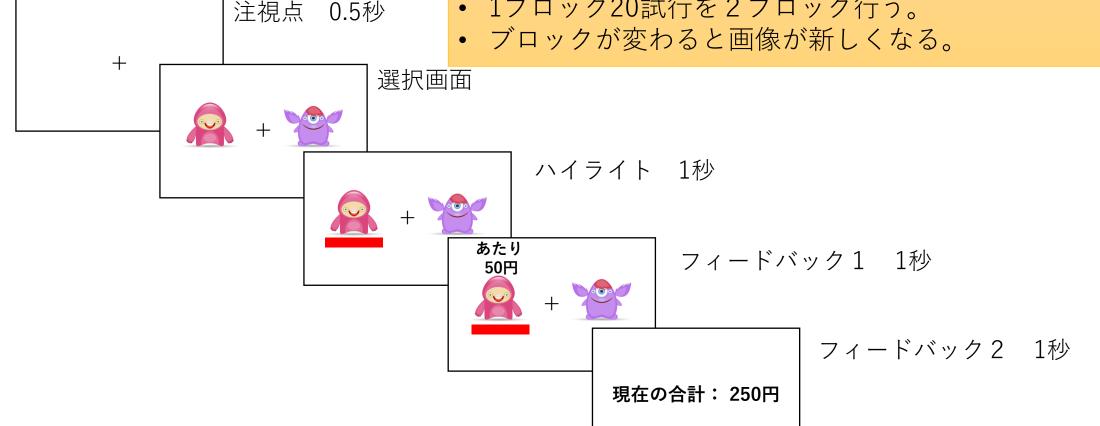
#### 以下のような課題をつくりましょう。



#### 新しい部分

#### 追加の設定

- 2つの刺激の左右どちらに提示されるかはランダム。
- 一方の画像(e.g., ピンクの画像)は,40%の確率で50 円, 60%の確率で0円。もう一方の画像(e.g., 紫の画 像)は、80%の確率で30円、20%の確率で0円。
- 各試行の最後に,**現在の合計**が提示される。
- 1ブロック20試行を2ブロック行う。



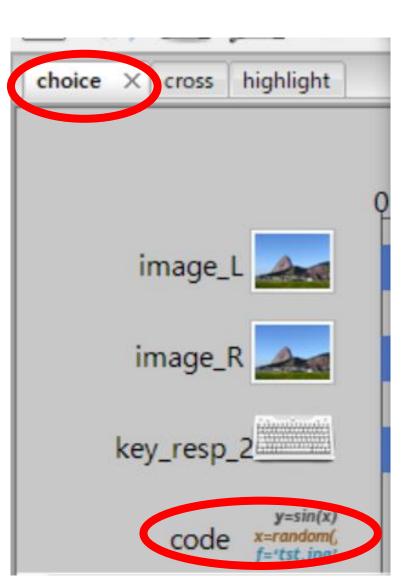
### 必要な変数を作る(1ブロック分のみ)

- **setting.xlsx** という名前で下記 のファイルを作成
- ここでは、feed1は刺激Aの フィードバック、feed2は刺激B のフィードバックとします。
- •1だとあたり、0だとはずれ。
- 作成したら、改めて、自身のプログラムに読み込んでください。

#### エクセルを更新した後は、必ず PsychoPyに再読み込み!

	А	В	С	D	
1	stimL	stimR	feed1	feed2	
2	s1.jpg	s2.jpg	1	1	
3	s1.jpg	s2.jpg	1	1	
4	s1.jpg	s2.jpg	0	1	
5	s1.jpg	s2.jpg	0	1	
6	s1.jpg	s2.jpg	0	0	
7	s2.jpg	s1.jpg	1	1	
8	s2.jpg	s1.jpg	1	0	
9	s2.jpg	s1.jpg	0	1	
10	s2.jpg	s1.jpg	0	1	
11	s2.jpg	s1.jpg	0	1	
12					
13					4

#### Feedbackに関する変数を設定する



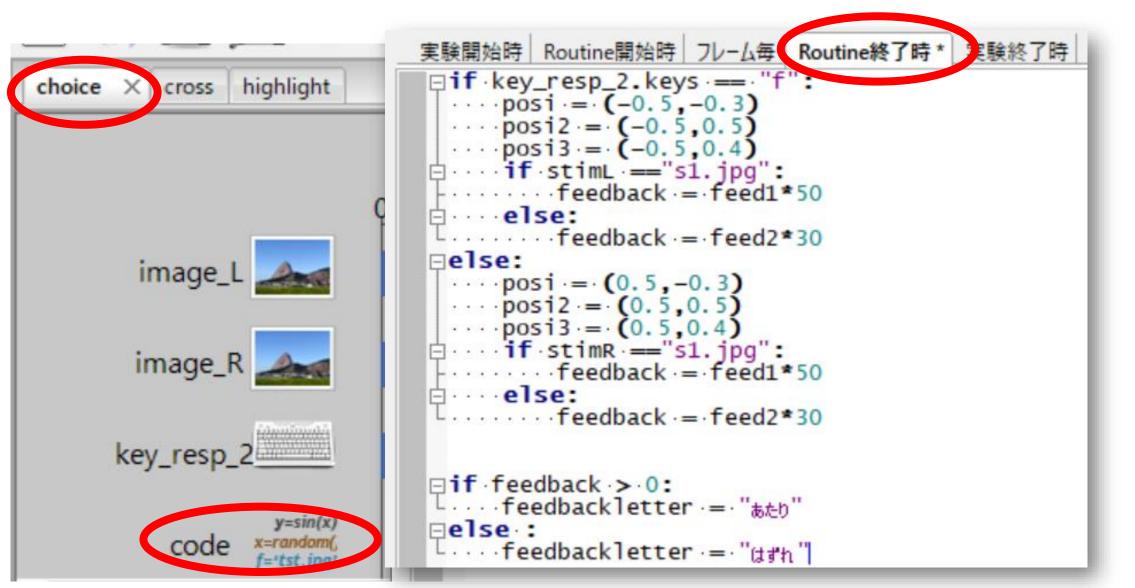
#### 下記の変数を設定

- posi2: あたり、はずれを提示する位置
- posi3: 点数を提示する位置
- feedback: 得点

(feed1であれば, feed1×50, feed2であればfeed2×30)

• feedbackletter: あたり, はずれの文字

#### Feedbackに関する変数を設定する



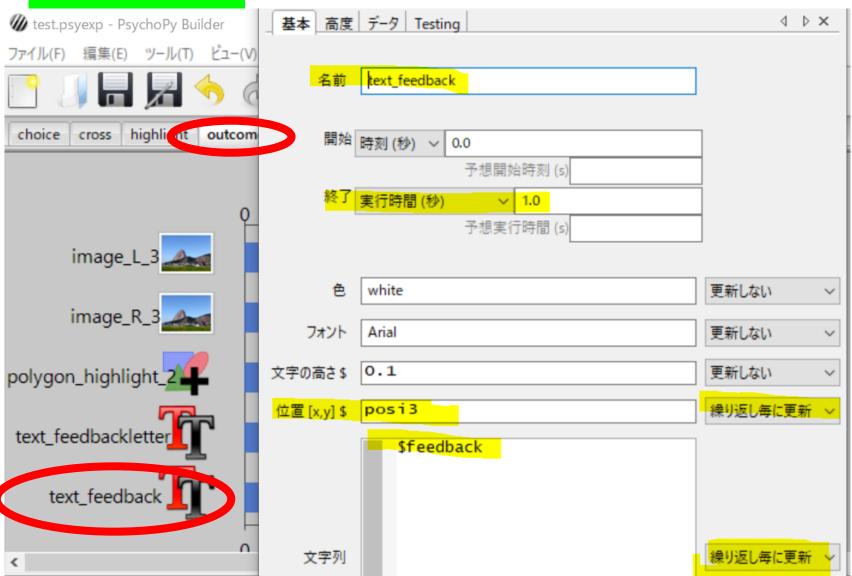
## <mark>outcome</mark>: Feedbackの**文字**を表示する



新しく 「outcome」とい うルーティーンを 作成しましょう。

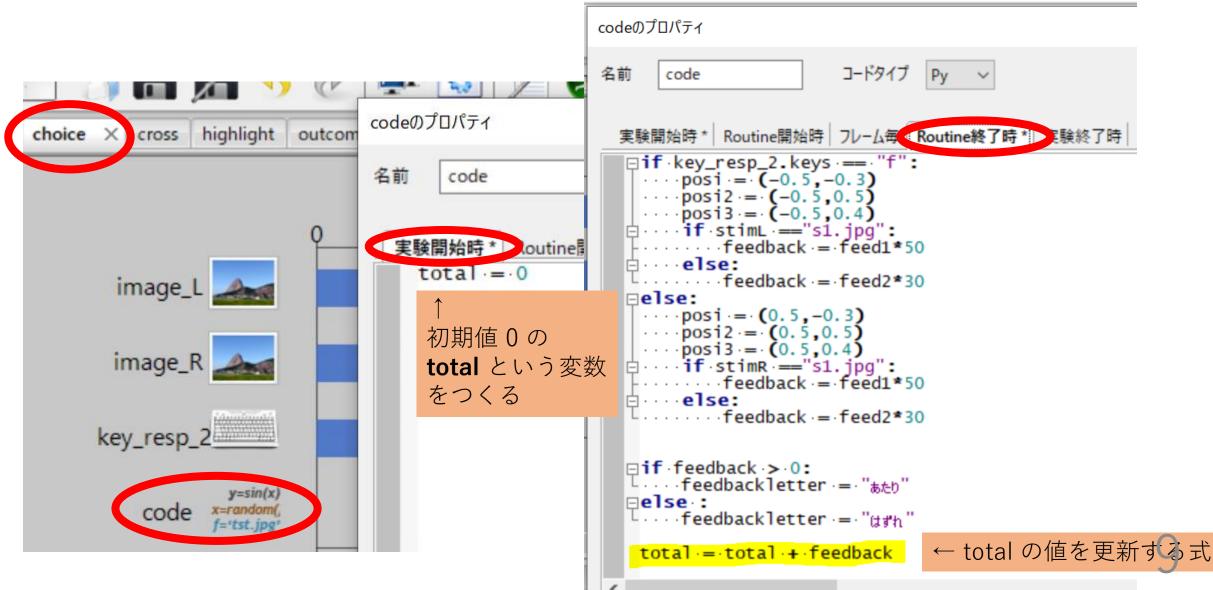
「highlight」をコピーして貼り付けると便利です。

## outcome: Feedbackの得点を表示する

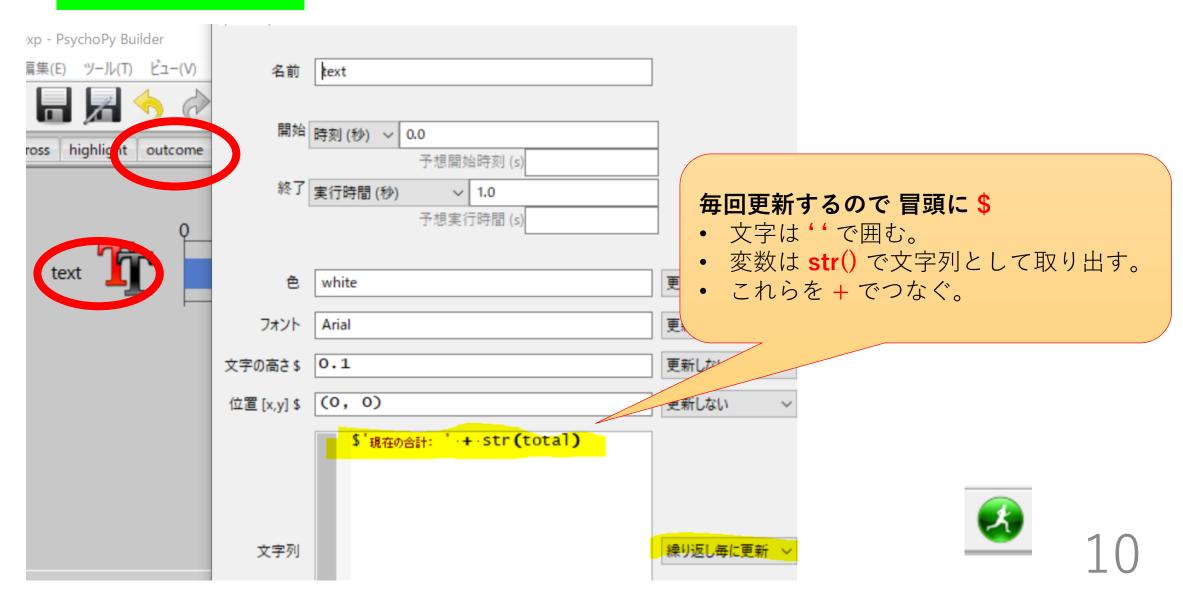




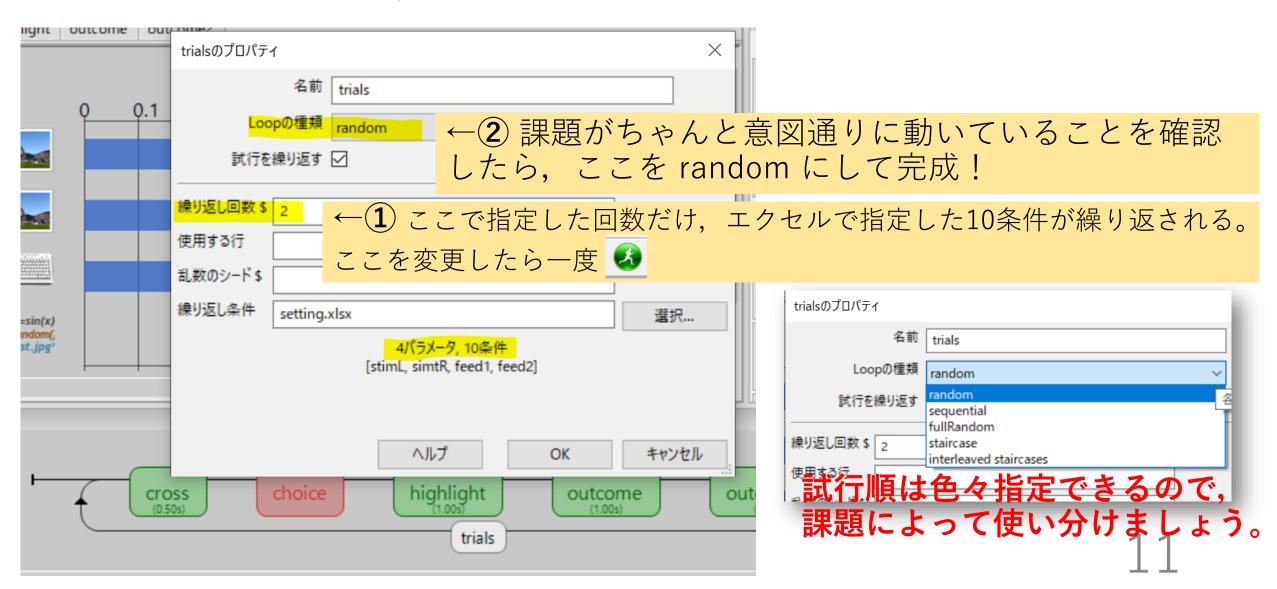
#### 合計金額に関する変数を設定する



## outcome2: 合計得点を表示する



#### 20試行にし、試行をランダムにする



## Tips: エクセルの参照行を指定する

• 例えば、似たような試行を2ブロックする場合、ブロック毎にエクセルの「**使用する行**」を変更することができます。



1	А	В	С	D
1	stimL	stimR	feed1	feed2
2	s1.jpg	s2.jpg	1	1
3	s1.jpg	s2.jpg	1	1
4	s1.jpg	s2.jpg	0	1
5	s1.jpg	s2.jpg	0	1
6	s1.jpg	s2.jpg	0	0
7	s2.jpg	s1.jpg	1	1
8	s2.jpg	s1.jpg	1	0
9	s2.jpg	s1.jpg	0	1
10	s2.jpg	s1.jpg	0	1
11	s2.jpg	s1.jpg	0	1

#### その他追記

乱数を発生する方法

- randint(1, 4)とすると,整数1,2,3から乱数を発生
- random()は, 一様乱数